

11月例会は『のんちゃんのリ弁』

夏期の行事が無事終了しました

今夏は、上映会に適した作品が少なかったことと、会員数の減少や文化庁補助金の削減のため、恒例になりつつあった一般向けの映画上映会を行えませんでした。

その代わりにの意味もあって、8月20日には、加古川出身の松下俊文監督を囲む会を開催し、9月2日の第50回例会では、「ドキュメンタリー映画の魅力」について高橋一郎監督に講演いただき、過去の例会のチラシの展示を行いました。いずれの行事も、好評のうちに無事終えることができました。心配していた行事だっただけに、これも会員皆さんをはじめ、関係各位のご協力のおかげと深く感謝するばかりです。



高橋一郎監督

また、もっとも心配していた会員数の減少もどまり、現在188人で、運営を行うためのぎりぎりの会員数までもち直してきました。これもチラシを配ったり、入会の勧誘を行っていただいた会員皆さんのおかげです。最悪の状況から脱しつつありますが、何とか会員が200人を超えて安定運営を行えるよう、今しばらくご協力いただきますようお願いいたします。

例会のお知らせ

- 名称／第51回例会『のんちゃんのリ弁』
- 日時／11月10日(水) ①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～
- 場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)
- 受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／のんちゃんのリ弁

■監督／緒方明

■出演／小西真奈美、岡田義徳、村上淳、佐々木りお、山口紗弥加、岸部一徳、倍賞美津子、斉藤暁、絵沢萌子、徳井優、北見敏之、松尾諭、上田耕一、花原照子

■データ／2009年、日本、107分、ドラマ／ヒューマン

■作品介绍／永井小巻は、下町育ちの31歳。真っ直ぐで、強がり、思い切りのよさは天下一品。そんな性格からか、ある日ダメ亭主に愛想を尽かし、娘のんちゃんを連れ実家の京島に出戻った。心機一転、仕事の面接をうけまくるがキャリアも職もない小巻に社会は厳しく、なけなしの貯金も底をつき日々の生活は苦しくなるばかり。そんな小巻の唯一の才能はお弁当作り。娘のために作ったのり弁が大評判になり、遂には自らの力で“安くて美味しい最高のお弁当屋を開く”ことを決意する。目標に向かって奮闘する小巻だが、現実はそう上手くいかず…。果たして小巻はお弁当屋をオープンし、無事に人生の再スタートをされるのか？金なし、職なし、社会常識なし、なんにも考えずに生きてきた31歳持ち女子、ゼロからの再スタート物語。小巻の生き方は一見無謀で不器用だけれども、常にひたむきで自分に正直。守りに入りがちなのにこんな時代だからこそ、本気で生きることの大切さを思い出し、明日に向かって歩き出したくなる。(オフィシャルサイトから抜粋)

「いつか読書する日」の緒方明監督が、入江喜和の同名コミックを小西真奈美主演で実写映画化した人情ストーリー。



松下俊文監督との交流会(夕食会)に参加して

この夏、加古川市主催による上映会で、**松下俊文監督**の『パチャママの贈りもの』を息子(中学1年)と共に鑑賞しました。アンデス高地のユウニ塩湖を舞台に、その地に暮らす家族と少年の物語という事で、私よりも息子が観て何かを感じてくれればという思いで鑑賞しましたが、想像していた以上に(と言ったらとても失礼ですが)良く、観終えた後はほんのり暖かい気持ちになりました。音楽も映画に合わせて心地よかったです。

鑑賞後に松下監督のあいさつがあったのですが、松下監督はポロシャツにジーンズというラフな出で立ちと気さくな話し方で、とても親しみがもてました。ですからこの上映会5日後に予定されていたシネマクラブ主催の監督との夕食会はとても楽しみでした。

夕食会でも監督はやはりポロシャツとジーンズというラフな恰好で、映画制作の話や、自身のお話をサービス精神旺盛に話して下さいました。2時間超の夕食会で、監督の口はずっと動いていたように思います。

私がかつとも印象に残っている事は、まず監督の目です。目がキラキラしていて、とても若々しく見えました(同年代のシネマクラブの会員さんと同じく比べてしまいました)。そして、監督の「年齢を重ねてくると、次世代を生きる子供たちに『伝える』という仕事をしていきたいという思いが強くなってきた」とお話をされていた事です。とても共感しました。『伝える』ことは大人の仕事だとあらためて考えさせられました。

そして、夕食会お開きとなり、実家がこの近くだという監督は、ママチャリにさっそうとまたがり、帰られました。映画を観た後と同じく暖かい気持ちになった私でした。(千)



前列中央が松下監督

映画の秋

今年は美味しい映画が豊作の秋だ。ベルリン映画祭で銀熊賞を受賞した「キャタピラー」は、監督若松孝二が「忘れるな、これが戦争だ」と、拳を振り上げ叫んでいる映画。主演の寺島しのぶの、熱い迫力の演技に圧倒される。十一月になると、松井久子監督の最新作「レオニー」も公開される。彫刻家イサム・ノグチの母、レオニー・ギルモアの物語。自らの意志で自らの未来を切り開いていく彼女の人生を、日本と米国の詩情あふれる美しい風景のなかに写した傑作。「瞳の奥の秘密」は、今年のアカデミー外国語映画賞を受賞したアルゼンチン映画。未解決事件と秘められたロマンスを交差させながら、実は痛烈な「愛」を物語る映画。「ミックマック」は「アメリカ」のジャン＝P・ジュネ監督作品。フランスの兵器製造のハイテク企業にミックマック(いたずら)する廃品回収のユニークな仲間たち。強烈な時代風刺を笑いにまぶした痛快作。「ミックマック」で、皆のおっかさん役だったヨランド・モローが、実在した女性画家を演じセザール賞七部門を受賞した「セラフィヌの庭」も始まる。映画の秋を楽しもう。(友)

前回例会の報告

9月2日(木)の例会では、農村に暮らす老夫婦と老牛の晩年を**イ・チュンニョル**監督が静かに撮り、文学性高い表現に仕上げた韓国のドキュメンタリー作品『牛の鈴音』を鑑賞しました。

参加者からのアンケートもいつもよりやや多い12件の投函がありそのうち10件が高評価でした。感想と意見欄からはみ出るほど書き込んでいるものが5件もありました。主な感想は、「親や自分に置き換えての年齢を重ねることの感傷」、「人間の尊厳を強く感じさせる作品と出会えた喜び」、「この作品を鑑ること待ち望んでいた」というものでした。予想を超える好評の意見をいただき、作品選定に関わった運営委員らも喜んでます。

特にありがたいことに、参加者数も多く、会員数が少しずつ挽回されてきました。参加者数147人。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 188人(9月2日現在)